

熱中症 五六月も注意

これは5月22日、新潟日報の大見出しです。専門家は「夏場だけでなく、急に気温が上昇する梅雨前や、梅雨期も熱中症に気を付けてほしい」と呼びかけています。

「生存知」ですか

1. 車内の子ども熱中症は10分を危険
JAF(日本自動車連盟)は、車内温度の危険性を周知するため、2007年4月29日に車内温度テストを実施しました。

当日は雨が降り、外気温23度の過しやすい日でしたが、車内のピーク温度はデジタル計測付近で48度、最も低い車内温度は38度と、48度という驚きの結果が測定されました。

ベビーカーは押して歩く大人に比べ、路面に近い乳幼児の体感温度が高く、気がないうちに脱水症状や熱中症を起すの危険があります。日除けで直射日光を避けて、こも顔面は大入りする程度、外気よりも

6度高いという調査データがあります。また、日射しを避けるためにタオルなどでベビーカーの前面を覆うと、内側に熱がこもることもわかりました。

乳幼児は体温調節機能が未熟なので、熱中症のリスクが大人よりも高いのです。それでは、子どもの熱中症を防ぐポイント

- 1. 衣服を選びましょう
- 2. 水分をこまめに摂りましょう
- 3. 日陰から暑さに慣れさせましょう
- 4. 放熱を促進する衣服を選び、環境条件に応じて調節しましょう
- 5. 大人が声をかけ30分〜1時間毎に水分を摂らせましょう

3. 日陰から暑さに慣れさせましょう
猛暑がやってくる前に、外でたくさん遊ばせて暑さに慣れさせましょう

「生存知」通りの6月4日は、歯予防デーです。日本小児歯科学会では、子どもが自分で歯みがきをするなどの目的と意味

「生存知」通りの6月4日は、歯予防デーです。日本小児歯科学会では、子どもが自分で歯みがきをするなどの目的と意味

また、次の項目にまとめて掲げています。1. お口の歯と舌をとり除いて、むし歯や歯ぐきの病気を防ぎます

- 2. 歯で食べたりお口に入れたり、仕上げ歯ぐきでお口の緊張や過敏がとり除かれます
- 3. 手指を使った細かな運動を学びます
- 4. 鏡に映る自分の顔、目、口の位置を覚え、ボディイメージの育成につながります
- 5. 手と口との協調性、体感覚を育みます
- 6. 食べたものが、生活習慣が身につきます

まだまだ仕上げ歯ぐきが続き、歯ブラシは親子をつなぐ温かいコミュニケーションになる、お母さんと同じ棒状のもので、歯ブラシによる事故防止のために、「歯ブラシを持たせたら遊ばせない」と厳格に徹底して、安全に楽しく歯ぐきがきまの習慣を身につけさせてあげたいと思っております。

「体ほじの交感器」を基本に、お口から始まる健全な体づくり。再スタートの六月です。

園長 福田孝子